

風

富田守男
①(現場)からの

なる。しかし農家の動向はなかなか経営方針を遂行した苦い経験から、初心に帰る「人」と「人」の出会いを大切にしていきたいとの思いを強くした経営者が多くなってきているのも事実だ。

東京の友人に大北地域の魅力を改めて聞く機会があった。「スーパースト」、「話術性」、「購買等の利便性」、「食の魅力」、「国際的エリヤ観」のイメージが強いとの答え。しかし持ち帰りたいと思う物が思い浮かばないとボソリ。課題が見えてくる。

80年代後期から、経営において「戦略的」という言葉が多く用いられるようになった。その「戦略」や「戦略的」の意味を尋ねると答えはまちまちで、お互い

年末年始、大北地域のスキー場が久しぶりに活気づいた。外国人旅行者も田舎の道に風が、多く見かける。宿泊関係者に話を聞くと、シーズン全般の手約も堅調との事。特に家族連れで雪を楽しまし、雪が溶けてスキー場に行かないと語案する。暖房灯油も1000円を越える経営者達は、10月、宿で過ごすのほかに、いよいよ。仕方の暖房時間を調整するものかなどと顔を曇らせた。消費者物価も見ると、5つに下り、1つは5つ、物の価格が上昇している。操業するサービスなどのコストを削減していかねばならぬ経営者に求められている。魅力的な自然美に、どのような物語を描いていけるのかが問われている。



12月31日に長野県環境保全研究所の調査報告が新聞報道された。県内の平均気温を20世紀20年代末と比較した場合、今世紀末には2.0〜4.7度上昇するとの内容。IPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)

の第4作業部会の報告原文では「温暖化が進むほど克服困難な影響が広範囲に生じ、人間や自然が適応できない限界を超える恐れが高くなる」と従来以上に断言した。警告。自然をベースに成り立つ観光の今後が危惧され、農産物への影響も心配される。

また環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の交渉も最終局面を迎えている。米通商代表部のカトラー次席代表代行のワシントン市での講演では、日本政府が方針を定めたコメの生産調整(減反)廃止などの農業改革に歓迎の意を示したとの報道も伝えられてきている。

戦術的思考で考える政府の米の備蓄運営現場で在庫が積みあが

戦略的思考が求められる意義 について考えて見ませんか

普通はコストとサービスのバランスを取る政策が大半だ。安全策の中で二面を追いいたいと思うことも理解できなくはない。しかし、これから直面する厳しい経済状況下、リーダーに「戦略的思考」が求められることも事実だ。

23年産米の価格も低迷している。価格を下げるには、規模の拡大が課題だが、大北地域の天候など、条件が厳しい中で大規模化を図った農業者の状況を見る限り、政策には疑問も多い。「米」や「品種」にこだわっているとは限らない。経営者、一部生産者に対して農業共済金を自己負担の義務を課せようとする声も聞かれている。収穫時に乾燥施設で生産者の顔が分からなくなっている。米作りは、おもしろい米作りの意欲が薄れてしまっている。米も多量に、だから米、農業現場でも、戦略的思考が求められている。

順次立っていかねばならない。農業でいえるが、これまでは行政が生産現場の整備や肥料管理技術を支援する立場で事業展開してきたが、生産現場は農業者の責任に委ね、行政は補助的な付加価値を加味して販売するから、軍用を備へるべき。全国の各地から情報発信がはじまっている。これまでは行政のすべき仕事ではないと見られた分野でも、行政として積極的に組み立てを必要とする時代を迎えた。

このあたりは着眼点や発想、取組める地域に差がある。このあたりは、NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村長(上)